

Aelius (or Claudius) Galenus
(129~200 ?)

B.C.
460頃 Hippocrates 全集
「歯の疾患・治療法」が記載

A.D.
150頃 Galenusの著作
「歯痛が最強」と記載

984 丹波康頼(たんばやすより)「医心方」編纂
歯痛・口臭などを記述



1300~1400代
丹波家：朝廷の口中医

1400頃 丹波兼康(たんばかねやす)：日本歯科医学の祖
(咽喉口腔科を開く)

1543 A.Vesalius：人体解剖学の祖
ファブリカ(人体の構造)出版

1545 A. Paré (仏)：近代外科学の父

1575 Paré の著作に歯の記述

1650頃 木床義歯(柳生宗冬のもの)作成

1728 P. Fauchard：近代歯科学の祖
「歯科外科医」を著す

1771 J. Hunter (英)：外科解剖医
「人の歯の博物学」を著す

1774 杉田玄白ら「解体新書」出版

1801 E.W. Skinner 歯科学書出版
(米国歯科学の祖)

1823 P.F. Siebold (独) 来日
(長崎で西洋医学を教授)

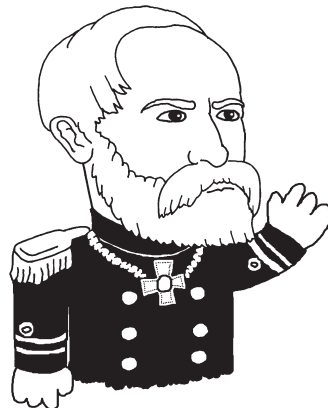
1839 ボルチモア歯科医学校が開校
(世界最初の歯科医学校)

1844 H. Welles (米)：笑気ガス麻酔

1846 W. Morton (米)：エーテル麻酔



Pierre Fauchard
(1678~1761)

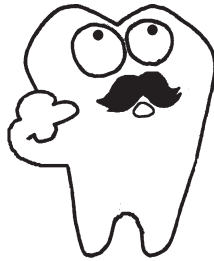


Philipp F. Siebold
(1796~1866)

Ambroise Paré
(1510~1590)

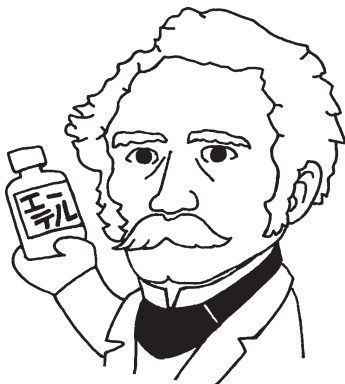


Andreas Vesalius
(1514~1564)



John Hunter
(1728~1793)

杉田玄白
(1733~1817)

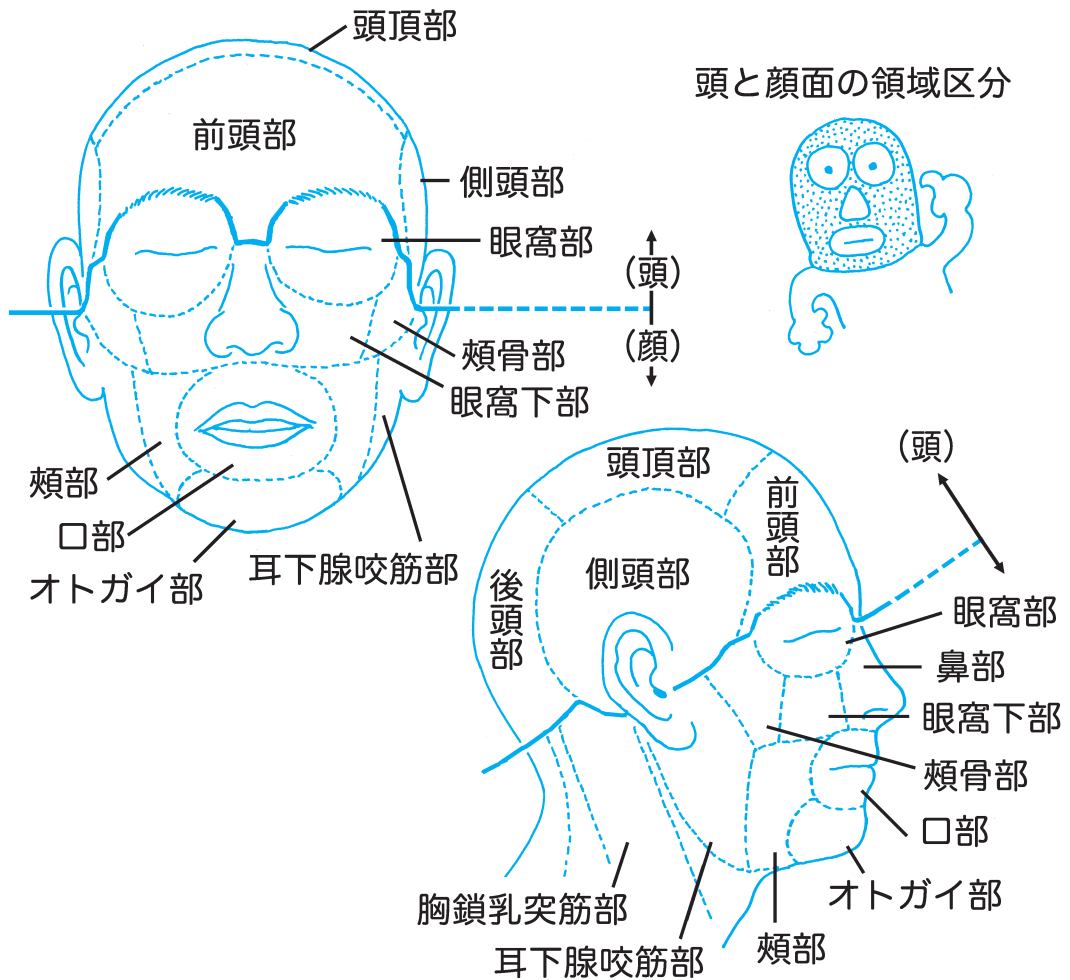


William T. Morton
(1819~1868)



Horace Welles
(1815~1848)

□ 頭蓋 head ・ 顔面 face の区分 □

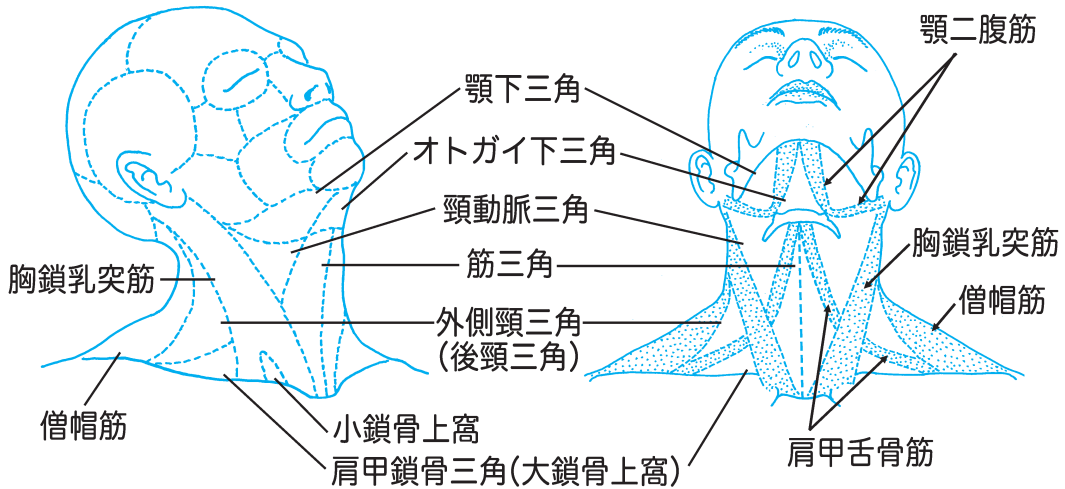


頭蓋・顔面・頸部は、構造上いくつかの領域に区分され、疾患部位の記載時などに使用する。
 頭蓋は、1) **頭頂部**、2) **前頭部**、3) **後頭部**、4) **側頭部**に区分される。頭頂部は頭蓋の最も高い所で、前頭部は頭の前方で額を指し、後頭部は頭の後方部である。側頭部は**頬骨**の上方で、側頭骨の**鱗部**・**乳突部**と**耳介**を含み、こめかみの部分である。こめかみとは、米を噛む時に動く所の意味である。

頭蓋と顔面の境界は、鼻根-眉毛-外耳孔を結ぶ線で、顔面は次の領域に区分する。

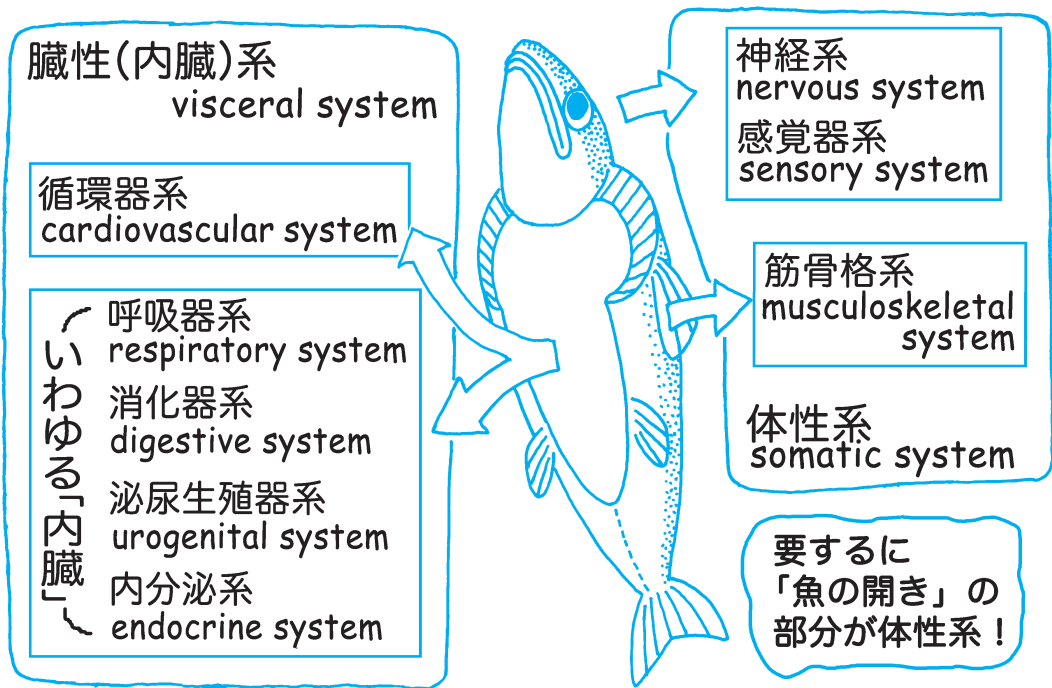
- 1) **眼窩部**
- 2) **眼窩下部**：皮膚の直下に眼窩下孔があり、深部に上顎洞がある。
- 3) **頬骨部**：皮膚の直下に頬骨と側頭骨の頬骨突起がある部分
- 4) **頬部**：頬を膨らませた時に膨らむ部分
- 5) **耳下腺咬筋部**：耳下腺・咬筋・顔面神経の耳下腺神経叢があり、深部に下顎枝がある。
- 6) **鼻部**
- 7) **口部**
- 8) **オトガイ部**：オトガイ唇溝から下の部分

□ 頸部の区分 (頸部の三角) □



頸部は、下顎骨下縁・側頭骨の乳様突起・後頭骨の外後頭隆起を結ぶ線（頭部との境界）と、胸骨上縁・鎖骨上縁・肩峰・第7頸椎の棘突起を結ぶ線（胸部との境界）に囲まれた領域である。僧帽筋の前縁より前方を前外側頸部、後方を後頸部（うなじの部分）に分けて、前側頸部をさらに次の領域に区分する。

- 1) **前頸三角** 前縁：正中線，後縁：胸鎖乳突筋の前縁，上縁：下顎骨下縁で，前頸三角はさらに次の4つに区分する。
 - a) **顎下三角** 上縁：下顎骨下縁，前下縁：顎二腹筋の前腹，後下縁：顎二腹筋の後腹，内容：顎下腺・顎下リンパ節・顔面動・静脈の一部
 - b) **頸動脈三角** 上縁：顎二腹筋の後腹，下縁：肩甲舌骨筋の上腹，後縁：胸鎖乳突筋の前縁，内容：総頸動脈の内・外頸動脈への分岐部・内頸静脈・迷走神経・上および中内深頸リンパ節
 - c) **オトガイ下三角** 後縁：両側の顎二腹筋の前腹，下縁：舌骨体，内容：オトガイ下リンパ節
 - d) **筋三角** 後上縁：肩甲舌骨筋の上腹，後下縁：胸鎖乳突筋の前縁，前縁：舌骨から胸骨までの正中線，内容：前頸静脈・前頸部リンパ節・胸骨舌骨筋・胸骨甲状筋・甲状腺・上皮小体
これら4つの三角のうちオトガイ下三角だけが無対である。
- 2) **胸鎖乳突筋部**
- 3) **小鎖骨上窩**：胸鎖乳突筋の胸骨頭および鎖骨頭と鎖骨で構成される三角形のくぼみで，この底には総頸動脈と内頸静脈がある。
- 4) **外側頸三角**（後頸三角） 前縁：胸鎖乳突筋の後縁，後縁：僧帽筋の前縁，下縁：鎖骨上縁で，外側頸三角はさらに次の2つに区分する。
 - a) **後頭三角** 前縁：胸鎖乳突筋の後縁，後縁：僧帽筋の前縁，下縁：肩甲舌骨筋の下腹，内容：外頸静脈・浅頸リンパ節・副神経リンパ節・副神経・頸神経叢・腕神経叢
 - b) **肩鎖骨三角**（大鎖骨上窩） 前縁：胸鎖乳突筋の後縁，上縁：肩甲舌骨筋の下腹，下縁：鎖骨上縁 内容：鎖骨下動脈・鎖骨下静脈・鎖骨上窩リンパ節



身体を構成する器官（臓器）organ は、その機能的な関連により、1) **筋骨格系** musculoskeletal system, 2) **循環器系** cardiovascular system, 3) **神経系** nervous system, 4) **感覚器系** sensory system, 5) **消化器系** digestive system, 6) **呼吸器系** respiratory system, 7) **泌尿生殖器系** urogenital system, そして8) **内分泌系** endocrine system といった器官系 organ system に分類される。5)～8)を合せて臓性(内臓)系 visceral system というが、反対にいくつかの系にまたがって位置する器官もある。

内臓とは「体腔 body cavity に納まっている部分」であり、**腺性系(臓性部分)** visceral system ともいう。また「体腔を囲む壁を構成する部分」を**体性系(体性部分)** somatic system という。この体腔は**胸腔** thoracic cavity と**腹腔** abdominal cavity をさし、**頭蓋腔** cranial cavity はこの分類に含めない。例えば「魚の開き」のほとんどは体性部分であり、皮膚・筋・骨格・感覚器・脳などが含まれる。機能の面からみると、体性系は「外部環境への対応」に働く部分であり、各種の感覚器や骨格筋がこれに属す。これに対して臓性系は「身体内部環境の調節」にあずかる部分であり、各種の内臓や腺・心臓などが含まれる。